

対談
クロストーク
第一弾

すがわら文仁

ふみひと

(戸田市議会議員)

青山 脩

やすし

(明治大学大学院教授)



私は、日々の政策研究や活動を通じて、政治や政策の現場で活躍するプロフェッショナルと交流をさせていただいております。対談シリーズ「クロストーク」では、様々な分野で活躍されている方との対話を通じて、行政や地域の課題を解決するには、何が必要なのかを考えていきたいと思えます。第一弾として、元東京都副知事、明治大学大学院教授の青山脩（やすし）先生にお話を伺います。

すがわら 青山教授は、石原知事の初代副知事としてご活躍をされました。副知事としては、危機管理、都市構造、福祉政策、財政再建、環境政策と多くの分野について担当されてこられました。また大学院では私も直接ご指導をいただき、多くの貴

重な経験を積ませていただきました。本日は、都市政策や危機管理政策をテーマにお話しさせていただきますと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。
青山 よろしくおねがいます。



世界から見た日本の将来

すがわら 昨年、ベトナムのエネルギー政策の自費視察に先生とご一緒させていただきました。平均年齢27歳という若い新興国の活気を肌身で感じました。一方で課題先進国といわれ、成熟した我が国は、平均年齢45歳となっております。危機感と、しかし活路を見出していかなければならぬという使命感を感じました。

青山 すごい活気でした。確かにベトナムとは違い日本は成熟化しています。だから先行きが暗いのかとい

うとそうではなくて、働ける人がいくつであっても働ける社会をつくれば、見通しは暗くないのではないかと。日本は定年制を延長するのが遅れていると思います。一律に年齢を打ち切るのがいいのかどうか。
すがわら 我が国の制度は働きたい人も働かせない制度が多い。制度が実態にあっていない状態に陥っております。

青山 そう、年金制度などはまさに働かせない制度。前向きに転換すべきだと思います。

すがわら文仁のホームページもご覧ください。

<http://www.sugawarafumihito.com/>

交通の利便性や満足度の高い戸田市の利点を活かした街づくりを

すがわら 女性も含めて労働人口を増やさないといけないですね。在職高齢年金は矛盾があります。もっと働きたい方の意欲と消費も喚起して経済を活性化しなければなりません。

青山 国内の消費も、成熟化した社会だからそのニーズというのがあまりありません。高度成長時代の物質的な豊

かさとは異なり、生活の質の向上をテーマにしていけば、活路は見出せると思いますよ。

すがわら ええ、安心、快適、学び、幸福感といったキーワード。私も自分のローカルマニフェストに掲げました。地方政治もそこがテーマになってきているんだと思います。



都市としての戸田を発展させる

すがわら 先週はドイツのミュンヘンに視察に行かれたということですが、どういった事を見てこられたのですか。

青山 ミュンヘンでは、再開発の失敗例を見てきました。中央部から電車で15分くらいの飛行場の跡地で、街をゾーニングで分け過ぎて、整然とし過ぎて生活感のない無機質な街になってしまった。日本も最近は複合機能が重視されていて、住居、商業、工業で分ける都市計画法は陳腐化していますね。なぜ政府は都市計画法を変えないのかと、私は常に糾弾しているわけです。ドイツで改めて感じました。

すがわら 日本の都市計画制度は規制や緩和の条件が非常に複雑ですね。戸田でもまちづくり条例を制定して、地区計画制度を導入していますが、その割には住民の理解や満足度が高くない気がします。北戸田駅前再開発など



が控えてるんですが、そういった事例に学ばなくてはいけないと感じます。これまで、戸田市は急激な都市化のなかで発展してきました。国道17号、

バイパス、埼京線、外郭環状線、首都高速といった交通の利便性向上に伴って物流倉庫や工場、食品、印刷製本といった業種が戸田市の基幹的な産業となつて展開し、埼京線開通を契機に住宅も人口も加速度的に増加しました。多くの自治体で都市政策に携わられてきたご経験から何をお感じになりますか。

青山 戦後、急激な都市化はこの都市でも見られましたが、戸田の特殊性は交通の要衝にあるということですね。一般的に都市人口は比較的スプロール化のなかで増加しますが、戸田は交通の要衝というところから発展しているのが特徴ではないかと思えます。

すがわら そうですね。戸田市の利便性は市民や企業にとって満足度が高いと思います。具体的には、南北軸への利便性が大きく発展したんです。その利点を活かしたまちづくりをしていかなくても賛成できません。だから4市合併にも賛成できませんでした。

青山 私の考える都市の定義というのが、3つありましてね、1つは集まって住むこと、2つ目は都市施設や都市システムが成立していること、3つ目は周辺に対する中心性です。戸田市はどうですか。

すがわら 周辺に対する中心性はこれからの課題かもしれません。が、戸田市も小さい自治体ながらも中心性を育てていく努力が必要だと思います。それに伴って新しい産業や文化が生まれ、街が活気づく。

青山 そう、産業という部分は、まちづくりには欠かせません。高度情報化時代には、単純な事は機械がやってくれます。ということは人間は知的な行為に純化していつて、異分野異業種の人たちと情報や意見を持ち寄り形成し発展させることは欠かせないのではないかと感じます。だから情報化社会は、

人の移動を生まないかと言ったら逆であって、フェイストゥーフェイスの中からアイデアや発想が生まれ、ビジネスが生まれる。

すがわら そういったことから利便性を活かしたいです。地域が持つ政治の責任ではないかと感じます。都市としての戸田市の発展させるために、今後の課題として注目していることがあります。

青山 どんな事でしょうか。

すがわら はい、それは「産業の流動化対策」と「行政サービスの質向上」です。産業の流動化はもうすでに起こり始めていますが、これからさらに首都圏全体が均一な整備を進展させます。羽田空港の国際化、そして中央環状線、外環道、圏央道の相次ぐ開通です。2012年には圏央道がほぼ全線開通、2015年には外環千葉区間が開通します。これは戸田市にとって少なからず影響があります。良い面として、中央道、東名、京葉、東関東といった全てにアクセス可能になり、すべての高速道と1時間以内でアクセス可能となります。一方、環状線の網の目が首都圏全体に広がる事で、戸田市

の基幹的な産業が流動化してさらに移り去ってしまう心配があります。先日、倉庫

業を営む経営者が、地価と面積要件が顧客ニーズに答えられない、事業を移転するほかない、と切実に言っておられました。空き店舗対策よりも空き倉庫対策が必要になってきているんです。市内産業の育成と固定化は課題です。また、行政サービスの課題としては、人口が増えるなかで、コミュニティの希薄化や犯罪の多発、慢性的な保育園の不足、教室不足など教育環境の課題、急激な高齢化に対する医療や福祉充実もあります。地域雇用の確保も大切です。そういった市民本位の行政サービスを向上していかななくてはなりません。

青山 これまでの歴史が証明しているのは、産業構造の変化は必然であって、それに逆らおうとするのは無駄な投資となる可能性があります。高度情報化



に対応したまちづくりということを考えた場合には、情報産業、研究施設、大学、専門学校といった主軸を意識的に育てたり誘致するといったところへ目を向けるべきではないかと思えますね。またもう一つは、楽しみがお金になる時代ですから、アートとか娯楽や社会的企業やコミュニティビジネス、福祉事業といった公共的な事業といったことも全体の中で考えないといけないと思えます。もちろんそれらには、前提として市民の選択が必要です。



すがわら そうですね、これまで戸田市は社会的な企業も含めて、事業や産業を育ててこなかったところがありました。これからは地域経済や社会活動を育てる事に真剣に向き合わなければならぬ。事業者の把握の中から最適な支援を行っていくことが必要です。それに伴った人材の育成も必要です。12万人の小さな自治体ですから、行政もそういった小さな芽を育てる事ができると思っています。産業の育成は喫緊の課題です。

青山 産業を育成する視点で考える

と、従来型の発想だけではやはり難しいでしょう。工場が移転したからといってマイナスではないと思います。住民が増えれば新たな売り上げや雇用が発生するし、いい循環やいい仕組みをつくっていくことで、良い街ができるのではないかと。ワンパターンに工場がマンションになることを悪いこと、とは考えないほうがいいですよ。それをプラスに転換すること考えないといけない。

すがわら 同感ですね。人口減少社会の中で、人口増加する都市の有り難味をプラス思考で考えなければならぬと思います。住宅と産業の共生をはかりつつも、夢をもつて戸田市に移り住んできた方が、住んでよかった、住み続けたいと思うことが私たち政治に携わる人間がやらなければいけない仕事です。財源の確保を積極的に行いながら、行政コストとのバランスを考えて、無駄を削りながら、知恵と工夫で、行政サービスの水準をいかに向上させていくのかといったところに、政治と行政の力が試されると思っています。



都市防災における自治体の役割

すがわら 次に、危機管理の都市防災という観点から伺います。今年も局地的豪雨により、各地で大変な被害が出ました。7月5日の豪雨では、荒川向かいの北区で1時間に107ミリを超過する大雨でたばこ倉庫が水につかり80億円の被害があったそうです。戸田市にとっても他人ごとではありません。そういった都市型災害には、手の打ちようがないような状況もあります。青山教授は副知事時代、三宅島噴火で全島避難を指揮されて、死亡者を一人も出さなかったという大きな実績を残されました。まさに最前線で住民の命を守ってこられたのですが、そういった都市型の災害についての自治体の対応はどうあるべきでしょうか。

青山 私の経験から言わせてもらえば、危機管理はその自治体の特性によって大きく異なると思えますね。たとえばニューヨーク市の危機管理は、テロと停電なんですよ。2003年に実際に48時間以上停電したんですから。ニューオーリンズだったら洪水ですよ。やはり地域の特性に合わせたリスクマネジメントが必要だと思います。

すがわら 戸田市のリスクは、やはりまず水害ですね。荒川の被害と、



集中豪雨による内水の氾濫です。海抜も一番高いところで4メートルしかないです。もし荒川の堤防が破堤すれば、すべての地域が水没します。そして、大震災のリスクです。地盤も砂地が多くて液状化の可能性があります。地域防災の点からの課題は、地域のつながりの希薄化やマンション住民の避難対策、災害時要援護者対策や帰宅困難者対策ですね。住宅密集地もまだまだありますので、延焼の危険性も無視できません。いずれにしてもハード、ソフトという横軸と、予防・対策の縦軸で戦略的な危機管理の体制づくりをしつかり行う必要があると思えます。

青山 関東平野という視点で考えると富士山など、火山の噴火、あと人口密集している地域ではインフルエenza対策。盲点としては、住民情報のサーバーのバックアップ体制も重要ですよ。

すがわら 富士山の噴火ですか。それは考えていませんでした。サーバーも遠隔地でとらないと安全性で問題が残るかも知れませんね。私は以前、地域の特性にあったリスクマネジメントとして戸田市独自の戦略として「防災条例」の制定を議会でも提案した事があります。いまだに採用されていないのが残念です。市町村という基礎自治体の役割は命に直結します。災害対策は国や県に頼っているだけではいけないという視点が大切だと思います。

青山 基礎自治体は住民の全てに責任を持つという気概でやってもいいのですが、よく県の姿勢がどうだとか、地方自治法では権限がどうとか、いい訳めいた話をする自治体の担当がいま

菅原さんのような若くてまっすぐな人にこそ日本の政治を託したい



が、そうではないと思います。危機管理の現場では、実際、あらゆることについて、基礎自治体が住民の為にこうだと決めれば通ってしまうんですよ。だからその気概を持ってもらいたいです。都道府県はあくまでそのバックアップということに徹していくことが重要でしょう。

すがわら そういった意味では、先進的な東京都内のいくつかの区では、BCPといった事業継続計画や「減災目標」という指標を設定しています。災害が起こった後の行政継続の計画や、被災した家屋の倒壊何棟、死傷者何人という形で、想定被害の目標を具体的に数値化して、予防措置の耐震化やインフラ整備、啓発を進めたりするというものですが、まだわずかな数の自治体しか設定していません。もちろん戸田市もまだ目標はありません。

青山 戸田市に限りませんが、危機的な状況といえますね。

すがわら はい。青山教授が毎年行なっている「凶上演習」という危機管理の実践的な演習を体験させていただきましたが、住民の生命財産を守る最前線は、役所だと肌身で感じ

ました。いざという時、国や県は現場にいるわけではないですから。自助や共助を活かすためにも、公助の体制づくりが二次災害防止や復興スピードに大きく影響すると思います。

青山 最近感じていることは、基礎自治体と住民との距離が遠くなっていると思います。明治維新の時代、基礎自治体は7万もあつたんですよ。今は1700ですからね。昨今の高齢者不明問題でもそうです。本来なら職権消滅という権限があるわけなんです。それをテレビで市役所の課長が出てきて「これ以上は調べようがありません」なんて言っているのは極めて怠慢ですよ、危機意識が足りない。課長としての資格はないと思いますよ。

すがわら それはひどいですね。最後まで責任をもつのが基礎自治体の役割です。それを監視していくのが政治家の仕事です。政治にも責任がないとは言えません。身が引き締まる思いです。

青山 そうですね。今の基礎自治体は危うい状況にあると考えて、政治家も取り組んだほうがいいと思えますね。



すがわら文仁への期待

すがわら 最後になりますが、私は、地盤・看板・カバンなしで政治の世界に飛び込んで、一部の人たちだけ

の政治を本当に市民のためになる政治に変えたいと日々頑張っています。先生は、副知

事の立場で、また大学院教授としても長年、政治家に接してこられました。そういった意味で、これからの政治家には何が求められると感じますか。

青山 私は都庁をやめて、作家をしていました。そうしたら公共政策大学院の制度ができて、いくつかの大学から来ないかという話があつて、お茶の水という地の利がある明治大学大学院でお引き受けしました。現在は7年目ですが、依然として政治家のみなさんが多くきてくれている。私どもの院生の多くが政治家や公務員で、特に菅原さんのような政治家が党派を問わず、政策を磨く場として活用しています。そういった学ぶ姿勢を忘れずに、初心を忘れずに頑張ってもらいたいと思います。

皆さんを見ると、日本の自治体政治の未来は非常に明るいとおもいますし、日本の未来はここにあると思います。すがわらさんは、若さと純粋さとまっすぐさを活かしてどんどん新たな課題にチャレンジしていただきたいと思います。これまでも、仲間と一緒に政策を議論して切磋琢磨してきたのを見て来ておりますし、よい志を持っていると思えます。私は、菅原さんのような若くてまっすぐな人にこそ日本の政治を託したいですね。

すがわら 本日はありがとうございます。しっかりとご期待に応えるように頑張っていきたいと思えます。

◎すがわら出張ミーティング随時開催中！

要請があれば、いつでも、どこでも、お伺いいたします。政治に関する事、行政相談など、どんなことでもお問い合わせください。
sawayaka@sugawarafumihito.com

◎まじめな政治活動を支える個人カンパを募集！

地盤、カンバン、カバンなしで政治に挑戦しているすがわらです。健全な民主主義を貫くために、しがらみのないクリーンな個人カンパを募集しております。企業献金はお断りしています。

振込先 巢鴨信用金庫 西浦和支店 普通 3113812
スガワラフミヒト コウエンカイ スガワラタカコ
(大変恐縮ですが、お振り込みいただきました方は、お名前、ご住所、ご連絡先をご一報下さい)
sawayaka@sugawarafumihito.com
または、090-8462-6482



◎プロフィール



青山 侑
やし
昭和18年生まれ 中央大学法学部卒
昭和42年 東京都庁経済局に入庁
平成11年～15年 石原知事の初代副知事に就任(危機管理、防災、都市構造、財政担当)
平成16年～現在 明治大学公共政策大学院 教授

専門 自治体政策・都市政策・危機管理・日本史人物伝
著書 東京都副知事ノート(講談社)、自治体の政策創造(三省堂)等多数
日本テレビ系「世界一受けたい授業」等に地下の博士として多数出演



すがわら文仁
ふみひと
昭和50年生まれ 明治大学大学院修了
平成17年 戸田市議会議員に当選(1993票、2位)
平成21年～現在 戸田市議会議員(4143票、歴代1位)

無所属 市民生活委員 議会改革特別委員
戸田市体操協会会長 上田きよし政治塾運営委員
埼玉坂本龍馬会幹事 日本地方自治学会会員
日本自治体危機管理学会会員